

令和 7年度版

危険度判定票を作成してみよう

被災宅地危険度判定士養成講習会

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会

危険度判定票を作成してみよう

擁壁編

①



②



③



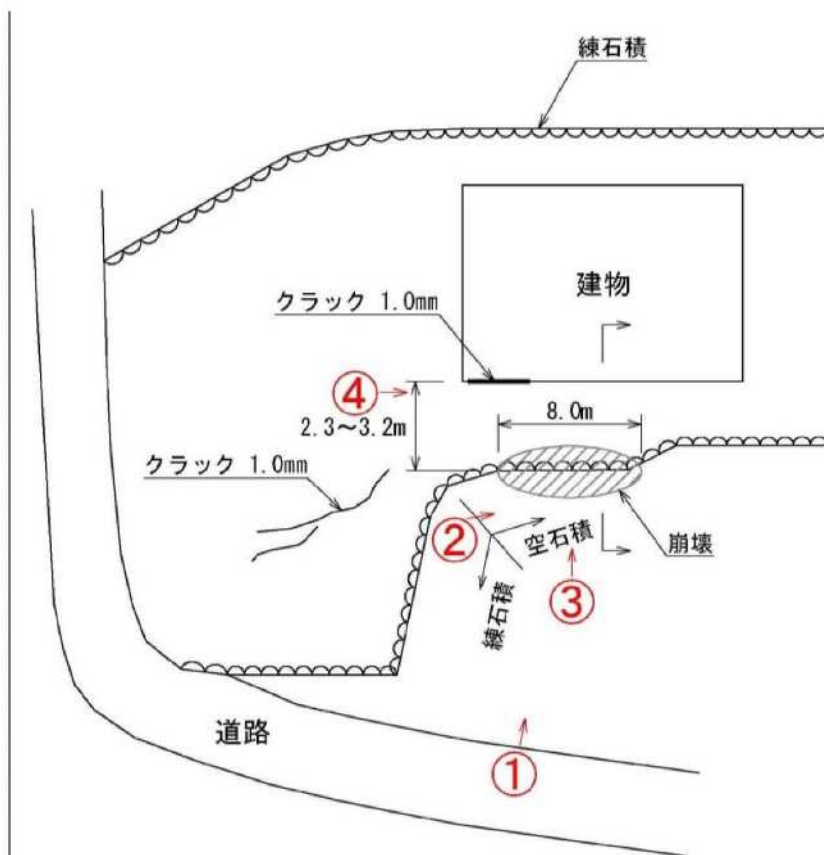
2023/10/24

④

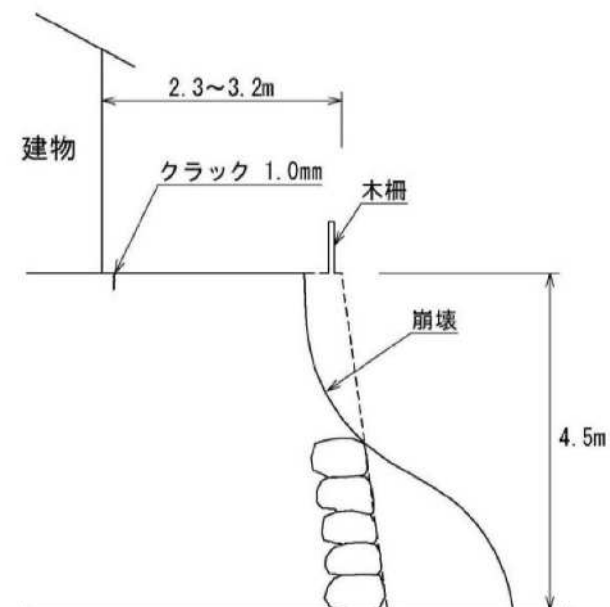


(様式－1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号	
		地震名又は降雨災害名						
被害発生場所	都道府県					区町村		
	地区団地					号		
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL.				
所有者・管理者の連絡先		TEL:		居住者への説明		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅		
写真・図より <被災状況図>						応急措置 ☒ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録		
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損	7.崩壊
8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷		9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状		建物・道路との位置関係(基礎点) 		
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。								



[平面図]



[断面図]

被災写真の有無	☐ 無 ☒ 有→写真番号 [7-①～④]
特記事項	

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☐ コンクリート系擁壁 ☐L(逆T)型 ☐重力式 ☐もたれ式 ☐その他	☐ 増積み擁壁	上部高 m ; 下部高 m 擁壁の設置条件 ☐切土・盛土境 ☐軟弱地盤上 ☐他 ☐不明 擁壁の勾配 度 又は (1 :)	
		☐ 練石積擁壁 ☐場所打ち ☐プレキャスト ☐間地石 ☐コンクリートブロック ☐その他	☐ 二段擁壁		
		☐ 玉石積 ☐ くずれ石積 ☒ 空石積擁壁 ☒ 間地石 ☐ その他	☐ 張出し床版付擁壁		
基礎点	①湧水	乾燥	☒ 影響範囲に建物または道路がある	☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)	基礎点計 ①+②+③ 1.0
		湿潤			
		にじみ出し、流出			
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止			
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい			
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適當			
	③高さ	H ≤ 1m			
		1m < H ≤ 3m			
		3m < H ≤ 4m			
		4m < H ≤ 5m			
5m < H					

空石積は構造的に
水抜孔の効果がある為、
天端状況で判断。

写真より

図より

区分	項目	小						中						大					
		コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積	コンクリ	練積	増積	2段	張出	空積
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5		2.5	3.5	4	5	7		4	5	6	7	8	
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
	3 不同沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
	4 ハラミ		4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10	
	7 崩壊		9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10
	8 張り出し床板付擁壁の支柱の損傷					7						9						10	
	9 基礎及び基礎地盤の被害																		
	10 排水施設の変状																		
	11 擁壁背面の水道管等破裂																		
変状の程度	項目/程度	小						中						大					
	1 クラック(幅)	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)。						2mm～20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm～5mm未満)。						20mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)。					
	2 水平移動(伸縮目地前後のずれ)	5mm未満の関節変位がある。						5mm～50mm未満の関節変位がある。						50mm以上の関節変位がある。					
	3 不同沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。						5mm～50mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。						50mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。					
	4 ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜け)	小規模のハラミ及び中抜け(積石が1～2個抜け落ちる)。						宅地地盤にテンションクラック無し円弧すべりのおそれ無し。						宅地地盤にテンションクラック有り円弧すべりのおそれ有り。					
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm未満の傾斜)。						擁壁が前面地盤に対し垂直以上(コンクリート系擁壁の場合:天端以上の傾斜)。						写真・図より					
	6 擁壁の折損(横・ななめひびわれから起きるもの。はらんでいるが曲線的でなく、クラックを境に鈍角に折れている)	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)						クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)						一見して大であると判るもの。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。)					
	7 崩壊	中程度より上から滑っている。						基礎部を残して滑っている。						機能を果たしていない。					
	8 張り出し床板付擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。						支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。						支柱の剪断破壊。					
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。																	
	10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。						左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。						水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。					
11 擁壁背面の水道管等破裂	破裂して水が漏出している。																		
被害の判定値		基礎点 + 変状点 1.0 + 9.0 = 10.0 点						☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1～4.5点未満(当面は防災上問題無し) 中被害: 4.5点～8.5点未満 (制限付き立入、進行していれば避難) 大被害: 8.5点～(危険、要避難、立入禁止)											
危険度判定		☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無						☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無											
所見(記入者の意見)		緊急度						(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。) (備考:)											
※無被害の場合は記載無し		拡大の見込						☒ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可											

2025/10/24

(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

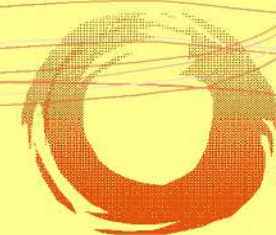
調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		記入者氏名 TEL: 居住者への説明 □済 □未了 □居住者不在 □老人独居住宅					
＜被災状況図＞ 1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊 8.張り出し床版付擁壁の支柱の根拠 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状 ※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
[平面図]				[断面図]			
被災写真の有無 □無 ☒ 有→写真番号 [7-①～④]							
特記事項 石積崩壊による家屋損傷の恐れあり							

擁壁の基礎条件	☐ コンクリート系擁壁 ☐ 石積擁壁 ☒ 石積擁壁	☐ L型 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ フレキキャスト ☐ コンクリートブロック ☐ くずれ石積	☐ 増積み擁壁 ☐ 二段擁壁 ☐ 張り出し床版付擁壁 ☐ 擁壁の設置条件	増積部分 擁壁部分 全擁壁高 m 増設高 m	上部 下部 上部高 m 下部高 m	☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明		
	擁壁の勾配 度又は (1 :)								
基礎点	①湧水	乾燥 湿潤 にじみ出し、流出 水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止 水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止 H≦1m 1m<H≦3m 3m<H≦4m 4m<H≦5m 5m<H	☒ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない	0 0.2 0.4 0 0.1 0.2 0.3 0.4	基礎点計 ①+②+③ 1.0				
	②排水施設			0.1					
	③高さ			0.6					
				0.4					
変状形態と変状点	項目	程度 小 中 大 擁壁種類 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11							
	1 クラック	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)							
	2 水平移動	5mm未満の隙間変位がある。							
	3 不同沈下・目地の開き	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。							
	4 ハラミ	小規模のハラミ及び中抜け(積石が1～2個抜け落ちる)							
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm未満の傾斜)							
	6 擁壁の折損	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)							
	7 崩壊	中間辺りから上が滑っている。							
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の根拠	支柱にひびが入っている。							
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。							
	10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端前面、舗装面にクラックが見られる。							
変状の程度	項目/程度	小 中 大 1 クラック(幅) 2 水平移動(伸縮目地前後のずれ) 3 不同沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き) 4 ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜け) 5 傾斜・倒壊 6 擁壁の折損 7 崩壊 8 張り出し床版付擁壁の支柱の根拠 9 基礎及び基礎地盤の被害 10 排水施設の変状 11 擁壁前面の水道管等破損							
	1 クラック(幅)	2mm～20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)							
	2 水平移動	5mm～50mm未満の隙間変位がある							
	3 不同沈下・目地の開き	5mm～50mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。							
大・中・小の概要説明	1 クラック(幅)	20mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)							
	2 水平移動	50mm以上の隙間変位がある							
	3 不同沈下・目地の開き	50mm以上の目地上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。							
	4 ハラミ	宅地地盤にテンションクラック無し(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm以上の傾斜)							
☆被害程度の点数と危険度判定☆	1 クラック(幅)	基礎点 + 被害点 1.0 + 9.0 = 10.0 点							
	2 水平移動	無被害: 0 点(防災上問題無し) 小被害: 1～4.5点未満(当面は防災上問題無し) 中被害: 4.5点～8.5点未満(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害: 8.5点～(危険、要避難、立入禁止)							
	3 不同沈下・目地の開き								
	4 ハラミ								
危険度判定	☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無								
	所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊急 拡大の見込 ☒ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無 ☐ 判断不可小							

2025/10/24

危険度判定票を作成してみよう

宅地編／擁壁編





①



①近



②



②近





③



④



⑤



⑥



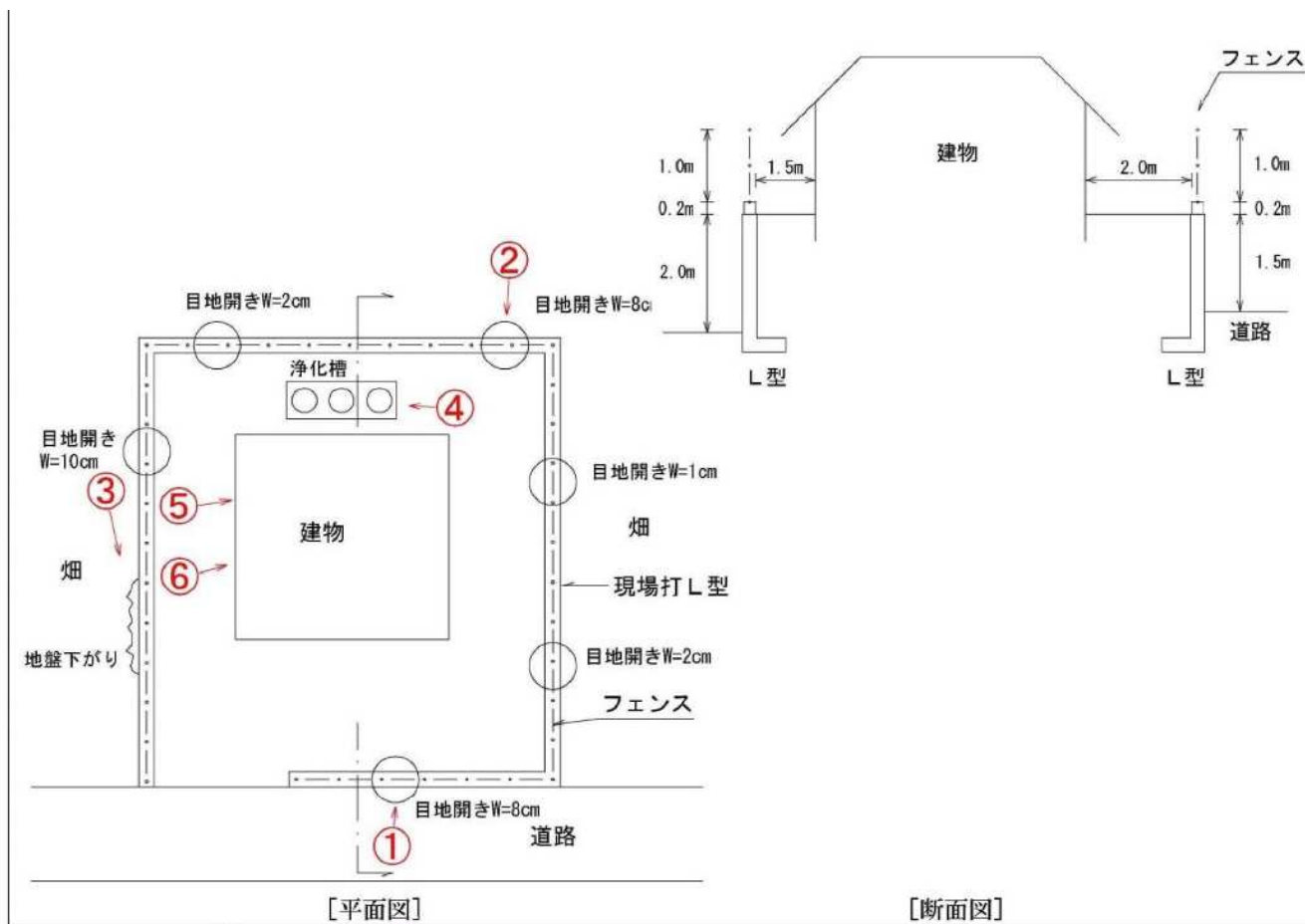
(様式-1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		TEL:					
記入者氏名		TEL:					
居住者への説明		□済 □未了 □居住者不在 □老人独居住宅					
＜被災状況図＞ 1.クラック 2.水平移動 3-1.不同沈下 3-2.目地の開き 4.ハラミ 5-1.傾斜 5-2.倒壊 6.擁壁の折損 7.崩壊 8.張り出し床版付擁壁の支柱の損傷 9.基礎及び基礎地盤の被害 10.排水施設の変状 建物・道路との位置関係(基礎点) 影響範囲外(西) 影響範囲(北) 影響範囲外(東) 1.0H 1.2H							
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
[平面図]				[断面図]			
被災写真の有無 □無 □有一写真番号 []							
特記事項							

擁壁の基礎条件	☐ コンクリート系擁壁 ☐ L型 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ フレキキャスト ☐ コンクリートブロック ☐ 玉石積 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ 増積み擁壁 ☐ 二段擁壁 ☐ 張り出し床版付擁壁 ☐ 擁壁の勾配	増積部分[擁壁部分] 全擁壁高 m 増設高 m 上部 下部 上部高 m ; 下部高 m ☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明 度又は (1 :)			
	☐ 擁壁の種類 ☐ 石積擁壁 ☐ 空石積擁壁	☐ くずれ石積 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ 影響範囲に建物または道路がある ☐ 影響範囲に建物または道路がない	☐ 基礎点計 ①+②+③			
基礎点	①湧水	乾燥 0 湿潤 0.4 にじみ出し、流出 0.8 水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止 0 水抜孔有、天端排水溝有、表面水が浸透しやすい 0.4 水抜孔無、あっても数・寸法が不適当 0.8 H≤1m 0 1m<H≤3m 0.2 3m<H≤4m 0.4 4m<H≤5m 0.6 5m<H 0.8	☐ 基礎点計 ①+②+③	☐ 基礎点計 ①+②+③			
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止 0 水抜孔有、天端排水溝有、表面水が浸透しやすい 0.4 水抜孔無、あっても数・寸法が不適当 0.8 H≤1m 0 1m<H≤3m 0.2 3m<H≤4m 0.4 4m<H≤5m 0.6 5m<H 0.8	☐ 基礎点計 ①+②+③	☐ 基礎点計 ①+②+③			
区分	項目	程度	小	中	大	空積	空積
	擁壁種類	コンクリ	縦積	増積	2段	張出	空積
変状形態と変状点	1 クラック	1 2 3 4 5 6	2.5 3.5 4 5 6	3.5 4 5 6 7 8	4 5 6 7 8 9	5 6 7 8 9 10	6 7 8 9 10 11
	2 水平移動	2 2.5 3.5 4 5 6	3.5 4 5 6 7 8	4 5 6 7 8 9	5 6 7 8 9 10	6 7 8 9 10 11	7 8 9 10 11 12
	3 不同沈下・目地の開き	3 3.5 4 5 6 7	4.5 5 6 7 8 9	5 6 7 8 9 10	6 7 8 9 10 11	7 8 9 10 11 12	8 9 10 11 12 13
	4 ハラミ	4 4.5 5 6 7 8	5 6 7 8 9 10	6 7 8 9 10 11	7 8 9 10 11 12	8 9 10 11 12 13	9 10 11 12 13 14
	5 傾斜・倒壊	5 5.5 6 7 8	6 7 8 9 10	7 8 9 10 11	8 9 10 11 12	9 10 11 12 13	10 11 12 13 14
	6 擁壁の折損	6 6.5 7 8 9	7 8 9 10 11	8 9 10 11 12	9 10 11 12 13	10 11 12 13 14	11 12 13 14 15
	7 崩壊	7 7.5 8 9 10	8 9 10 11 12	9 10 11 12 13	10 11 12 13 14	11 12 13 14 15	12 13 14 15 16
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷	8 8.5 9 10 11	9 10 11 12 13	10 11 12 13 14	11 12 13 14 15	12 13 14 15 16	13 14 15 16 17
	9 基礎及び基礎地盤の被害	9 9.5 10 11 12	10 11 12 13 14	11 12 13 14 15	12 13 14 15 16	13 14 15 16 17	14 15 16 17 18
	10 排水施設の変状	10 10.5 11 12 13	11 12 13 14 15	12 13 14 15 16	13 14 15 16 17	14 15 16 17 18	15 16 17 18 19
	11 擁壁前面の水道管等破裂	11 11.5 12 13 14	12 13 14 15 16	13 14 15 16 17	14 15 16 17 18	15 16 17 18 19	16 17 18 19 20
変状の程度	1 クラック(幅)	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)	2mm~20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm~5mm未満)	20mm以上(コンクリート系擁壁の場合5mm以上)			
	2 水平移動(伸縮目地前後のずれ)	5mm未満の隙間変化がある。	5mm~50mm未満の隙間変化がある。	50mm以上の隙間変化がある。			
	3 不同沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。	5mm~50mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある。	50mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。			
	4 ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜け)	小規模のハラミ及び中抜け(積石が1~2個抜け落ちる)	宅地地盤にテンションクラック無し(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm以上の傾斜)	宅地地盤にテンションクラック有り(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm以上の傾斜)			
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm未満の傾斜)	擁壁が前面地盤に対し垂直以上。(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm以上の傾斜)	擁壁が前面地盤に対し垂直以上。(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm以上の傾斜)			
	6 擁壁の折損	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)	クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)	一見して大であると思われるもの、(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。)			
	7 崩壊	中間部から上が滑っている。	基礎部を残して滑っている。	機能を果たしていない。			
	8 張り出し床版付擁壁の支柱の損傷	支柱にひびが入っている。	支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。	支柱の剪断破壊。			
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている。	左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。	水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。			
	10 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見ら	左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。	水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている。			
	11 擁壁前面の水道管等破裂	破裂して水が流出している。	破裂して水が流出している。	破裂して水が流出している。			
被害の判定値	被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し	基礎点 + 被害点 = 点	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害：0点(防災上問題無し) 小被害：1~4.5点未満(当面は防災上問題無し) 中被害：4.5点~8.5点未満(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害：8.5点~(危険、要避難、立入禁止)				
	危険度判定	☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 ☐ 無	所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊急 ☐ 大 ☐ 中 ☐ 小 拡大の見込 ☐ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可小			

(様式－1)擁壁被害状況調査・危険度判定票

調 査 票		調査日時	年	月	日	時	調査番号	
		地震名又は降雨災害名						
被害発生場所	都道府県		市郡		区町村			
	地区団地		丁目		番 号			
所有者・管理者氏名			記入者氏名	TEL：				
所有者・管理者の連絡先	TEL：		居住者への説明	☐ 済 ☐ 未了 ☐ 居住者不在 ☐ 老人独居住宅				
写真・図より			<被災状況図>			応急措置 ☐ 済 ☒ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録		
1.クラック	2.水平移動	3-1.不同沈下	3-2.目地の開き	4.ハラミ	5-1.傾斜	5-2.倒壊	6.擁壁の折損	7.崩壊
8.張出し床版付擁壁の支柱の損傷		9.基礎及び基礎地盤の被害		10.排水施設の変状		建物・道路との位置関係(基礎点) 		
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。								



被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [14-①～③]	
特記事項	

擁壁の基礎的条件	擁壁の種類	☒ コンクリート系擁壁 ☒I(逆T)型 ☐重力式 ☐もたれ式 ☐その他 ☐場所打ち ☐プレキャスト	☐ 増積み擁壁	増積部分[] 擁壁部分[] 全擁壁高 m 増設高 m	
		☐ 練石積擁壁 ☐間地石 ☐コンクリートブロック ☒その他[]	☐ 二段擁壁	上部[] 下部[] 上部高 m ; 下部高 m	
		☐ 空石積擁壁 ☐玉石積 ☐くずれ石積 ☐間地石 ☐その他[]	☐ 張出し床版付擁壁 擁壁の設置条件 擁壁の勾配	☐ その他[] ☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明 度 又は (1 :)	
基礎点			☒ 影響範囲に建物または道路がある	☐ 影響範囲に建物または道路がない(B)	基礎点計 ①+②+③ 0.2
	①湧水	乾燥	0	0	
		湿潤	0.4	0.2	
		にじみ出し、流出	0.8	0.4	
	②排水施設	水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止	0	0	
		水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい	0.4	0.2	
		水抜孔無、あっても数・寸法が不適當	0.8	0.4	
	③高さ	H≤1m	0	0	
		1m<H≤3m	0.2	0.1	
		3m<H≤4m	0.4	0.2	
4m<H≤5m		0.6	0.3		
5m<H		0.8	0.4		

図より

区分	項目	小				中				大									
		コンクリ	鉄筋	増積	2段	張出	空積	コンクリ	鉄筋	増積	2段	張出	空積						
変状形態と変状点	1 クラック	1	2	3	4	5		2.5	3.5	4	5	7		4	5	6	7	8	
	2 水平移動	2	2.5	3.5	4	6	6	3.5	4	4.5	5	7	7	5	5.5	6	7	9	9
	3 不同沈下・目地の開き	3	3.5	4	5	7		4.5	5	6	7	9		6	7	8	9	10	
	4 ハラミ		4.5	5	6	8	8		6	7	8	9	9		8	9	10	10	10
	5 傾斜・倒壊	5	5.5	6	7	8		7	8	8	9	10		8	9	10	10	10	
	6 擁壁の折損	6	6.5	7	8	9		7	8	9	9	10		8	9	10	10	10	
	7 崩壊		9	9	10	10	8		10	10	10	10	9		10	10	10	10	10
	8 張り出し床板・擁壁の支柱の損傷					7						9						10	
	9 基礎及び基礎地盤の被害	10																	
	10 排水施設の変状	3				5				7									
	11 擁壁前面の水道管等破裂	10																	
変状の程度 大・中・小の概要説明	項目/程度	小				中				大									
	1 クラック幅	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満)				2mm～20mm未満(コンクリート系擁壁の場合2mm～5mm未満)				20mm以上のクラックがある									
	2 水平移動(併設地前後のずれ)	5mm未満の隙間変化がある				5mm～50mm未満の隙間変化がある				50mm以上の隙間変化がある									
	3 不同沈下・目地の開き(目地上下・左右の開き)	5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある				5mm～50mm未満の目地の上下のずれ又は目地の開きがある				50mm以上の目地の上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある									
	4 ハラミ(テンションクラック・ずれ・中抜き)	小規模のハラミ及び中抜きが縦石が1～2個ほど落ちる				宅地地盤でテンションクラック無し、円弧すべりのおそれ無し				宅地地盤でテンションクラック有り、円弧すべりのおそれ有り									
	5 傾斜・倒壊	擁壁が前面地盤に対し垂直以下(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm未満の傾斜)				擁壁が前面地盤に対し垂直以上(コンクリート系擁壁の場合：天端50mm以上の傾斜)				擁壁が前面傾・倒壊してその機能を失っているもの									
	6 擁壁の折損(横・ななめにずれから起きるもの、はらんでいるが縦断的になく、クラックを境に斜めに折れている)	クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに前傾している。)				クラックを境に明らかに角度をなしており、抜糸石があり、裏面のコンクリートが見える。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。)				一見して大であると判るもの。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。)									
	7 崩壊	中程度より上から滑っている				基礎部を残して滑っている				機能を果たしていない									
	8 張り出し床板・擁壁の支柱の損傷	支柱がひび割れている				支柱のコンクリートが崩れて鉄筋が見えている				支柱の剪断破壊									
	9 基礎及び基礎地盤の被害	大規模な沈下やクラックが生じている																	
	10 排水施設の変状	天端非水溝にずれ、欠損がある。又は、天端前面、側面等にクラックが見られる				左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある				水抜孔の詰まり、破損があり、排水機能が失われている									
11 擁壁前面の水道管等破裂	破裂して水が漏れている																		
被害の判定値		基礎点 + 変状点 0.2 + 6.0 = 6.2 点				☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1～4.5 点未満 (当面は防災上問題無し) 中被害： 4.5 点～8.5 点未満 (制限付き立入、進行していれば避難) 大被害： 8.5 点～(危険、要避難、立入禁止)													
危険度判定		☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無																	
所見記入者の意見		緊急度 ☐ 大 ☒ 中 ☐ 小				(人命・財産・交通の3点を判定基準とする。)													
※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		拡大の見込み ☒ 有 ☐ 無 ☐ 判断不可				(備考：)													

写真・図より

(様式-1) 擁壁被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被災発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		TEL: 記入者氏名 TEL: 居住者への説明					
調査票		☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 済 ☐ 未了					
① 湧水 ② 排水施設 ③ 高さ							
1. クラック 2. 水平移動 3-1. 不同沈下 3-2. 目地の開き 4. ハラミ 5-1. 傾斜 5-2. 倒壊 6. 擁壁の折損 7. 崩壊							
8. 張り出し床版擁壁の支柱の損傷 9. 基礎及び基礎地盤の被害 10. 排水施設の変状							
建物・道路との位置関係(基礎点)							
※簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
[平面図] [断面図]							
被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [14-①~③]							
特記事項							

変状等が著しく、当該宅地に立ち入る際は、時間・人数を制限するなど十分注意が必要 変状が進行していれば避難も必要

擁壁の基礎条件	☒ バックリ系擁壁 ☐ もたれ式 ☐ その他	☐ 重力式 ☐ 増設擁壁	増設部分 擁壁部分 全擁壁高 m 増設高 m
	☐ 擁壁後擁壁 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ フレキャスト ☐ コンクリートブロック ☐ 二段擁壁	上部 下部 上部高 m 下部高 m
基礎点	☐ 空石積擁壁 ☐ 玉石積 ☐ 間地石 ☐ その他	☐ くずれ石積 ☐ 擁壁の設置条件 ☐ 擁壁の配筋	☐ 張り出し床版擁壁 ☐ 切土・盛土境 ☐ 軟弱地盤上 ☐ 他 ☐ 不明
	① 湧水 ② 排水施設 ③ 高さ	乾燥 0.4 浸潤 0.2 にじみ出し、流出 0.4 水抜孔有、天端排水溝有、表面水の浸透阻止 0.4 水抜孔有、天端は表面水が浸透しやすい 0.2 水抜孔無、あっても敷・寸法が不適当 0.4 H ≤ 1m 0.4 1m < H ≤ 3m 0.1 3m < H ≤ 4m 0.2 4m < H ≤ 5m 0.3 5m < H 0.4	基礎点計 ①・②・③ 0.2
区分	項目 程度 擁壁種類	小 中 大	小 中 大
	1 クラック 2 水平移動 3 不同沈下・目地の開き 4 ハラミ 5 傾斜・倒壊 6 擁壁の折損 7 崩壊 8 張り出し床版擁壁の支柱の損傷 9 基礎及び基礎地盤の被害 10 排水施設の変状 11 擁壁前面の水道管等破裂	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 2 2.5 3.5 4 5 6 7 8 9 10 11 3 3.5 4 5 6 7 8 9 10 11 4 4.5 5 6 7 8 9 10 11 5 5.5 6 7 8 9 10 11 6 6.5 7 8 9 10 11 7 7 8 9 10 11 8 8 9 10 11 9 9 10 11 10 10 11 11 11	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 2 2.5 3.5 4 5 6 7 8 9 10 11 3 3.5 4 5 6 7 8 9 10 11 4 4.5 5 6 7 8 9 10 11 5 5.5 6 7 8 9 10 11 6 6.5 7 8 9 10 11 7 7 8 9 10 11 8 8 9 10 11 9 9 10 11 10 10 11 11 11
変状の程度	1 クラックの幅 2 水平移動 (伸縮目地前後のずれ) 3 不同沈下・目地の開き (目地上下・左右の開き) 4 ハラミ (テンションクラック・ずれ・中抜け) 5 傾斜・倒壊 6 擁壁の折損 (横・ななめびびわれから起きるもの。はらんでいるが曲線的でなく、クラックを境に鋭角に折れている) 7 崩壊 8 張り出し床版擁壁の支柱の損傷 9 基礎及び基礎地盤の被害 10 排水施設の変状 11 擁壁前面の水道管等破裂	2mm未満のクラックはあるが、機能上の支障なし(コンクリート系擁壁の場合2mm未満) 5mm未満の隙間変位がある。 5mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。 小規模のハラミ及び中抜け(積石が1~2個抜け落ちる) 擁壁が前面地盤に対し垂直以下。(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm未満の傾斜) クラックを境にわずかに角度をなしている。(コンクリート系擁壁の場合クラックを境にわずかに傾斜している) 中間部から上が割れている。 支柱にひびが入っている。 大規模な沈下やクラックが生じている。 天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。 破裂して水が漏れている。	2mm~20mm未満 (コンクリート系擁壁の場合2mm~5mm未満) 5mm~50mm未満の隙間変位がある。 5mm~50mm未満の目地上下のずれ又は目地の開きがある。 宅地地盤にテンションクラック無し 円盤すべりのおそれ無し 擁壁が前面地盤に対し垂直以上。(コンクリート系擁壁の場合:天端50mm以上の傾斜) クラックを境に明らかに角度をなしており、抜け石があり、裏込めコンクリートが見える。コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前方に傾斜している。 基礎部を残して割れている。 支柱のコンクリートがはがれて鉄筋が見えている。 左に加え擁壁のクラック又は目地からの湧水がある。
	20mm以上 (コンクリート系擁壁の場合5mm以上) 50mm以上の隙間変位がある。 50mm以上の目地上下のずれ又は目地の開きがあり、滑動、転倒のおそれがある。 宅地地盤にテンションクラック有り 円盤すべりのおそれ有り 擁壁が前傾・倒壊してその機能を失っているもの。 一見して大であるが、コンクリート系擁壁の場合クラックを境に前傾している。又は、1mmでも剪断破壊があり後傾している。 機能を果たしていない。 支柱の剪断破壊。	☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1~4.5点未満(当面は防災上問題無し) 中被害: 4.5点~8.5点未満(制限付き立入、進行していれば避難) 大被害: 8.5点~(危険、要避難、立入禁止)	
被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し	基礎点 + 変状点 0.2 + 6.0 = 6.2 点	危険度判定 ☐ 大 ☒ 中 ☐ 小 ☐ 無	所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
被害発生場所		都道府県 市郡 区町村					
所有者・管理者氏名		地区 団地 丁目 番 号					
所有者・管理者の連絡先		記入者氏名 TEL: 居住者への説明 済 未了 居住者不在 老人独居住宅					
地震名又は降雨災害名		緊急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
<被災状況図>		宅地地盤 のり面・自然斜面					
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラム	2-2.盛ぶくれ
3.ガリー浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊					
3.のり面保護工変状		6.排水施設の変状					
特記事項		※宅地地盤・宅地ののり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を宅地地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。					
被害写真の有無		[平面図] [断面図]					
特記事項							

のり面・自然斜面の基礎的条件						
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明	オーバーハング ☐ 無 ☐ 有			
	土砂	☐ 砂質土 ☐ 硬質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明	排水施設 ☐ 無 ☐ 有(のり面、小段排水)			
のり面高 (複合のり面は標高高低)	最大高	m(平均高)	のり面保護工 ☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物			
のり面勾配	度	擁壁配置 ☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部				
のり長さ	m	家の有無 上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無				
変状形態と配点表						
宅地地盤	変状形態のチェック(複数可)	小	中	大		
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15 cm 未満又は複数	3	15 cm 以上又は全面
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm 未満	4	50 cm 以上
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm 未満	4	25 cm 以上
	4 段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm 未満	5	50 cm 以上
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm 未満	8	50 cm 以上
	6 湧水、噴砂	☐ 無 ☐ 有+1点(上の点数に1点加える)				
のり面・自然斜面	変状形態のチェック(複数可)	小	中	大		
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm 未満又は複数	2	15 cm 以上又は全面
	2 ハラム(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm 未満	4	30 cm 以上
	3 ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表上が雨裂に陥没するなど放置しているのり面等があるおそれのあるもの。	7	洞穴状や陥没状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んで、えぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり棒の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり棒の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり棒の浮上り破損。又はコンクリート吹付工のラシ金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は日地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。
	7 のり面内の水道管等の破損	破損して水が流出している。	8			
8 湧水、落石・転石	☐ 無 ☐ 有+1点(上の点数に1点加える)					
被害の判定値		点				
※被害の判定値は、被害の発生範囲を考慮した点数。 ※被害の発生範囲は、被害の発生範囲を考慮した点数。		☆被害程度の点数と危険度判定☆				
危険度判定		無被害: 0点(防災上問題無し) 小被害: 1~3点(当面は防災上問題無し) 中被害: 4~7点(制限時付き立入、通行しては避難) 大被害: 8~10点(危険、要避難、立入禁止)				
簡易記入者の氏名	緊急度	(人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)				
※簡易記入者の氏名は、簡易記入者の氏名を記入する。	拡大の見込	(備考:)				



＜被災状況図＞					応急措置 ☐ 済 ☐ 未了 ☐ 被災無 ☐ 簡易記録					
宅地地盤					のり面・自然斜面					
1.クラック	2.陥没	3.沈下	4.段差	5.隆起	1.クラック	2-1.ハラミ	2-2.盤ふくれ	3.カリ-浸食	4-1.滑落	4-2.崩壊
5.のり面保護工変状		6.排水施設の変状		※宅地地盤・宅地のり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。						
[平面図]					[断面図]					
被災写真の有無 ☐ 無 ☒ 有→写真番号 [14-④～⑥]										
特記事項										





のり面・自然斜面の基礎的条件							
地盤	岩	☐ 軟岩 ☐ 硬岩 ☐ 不明		オーバーハング	☐ 無 ☐ 有		
	土 砂	☐ 砂質土 ☐ 礫質土 ☐ 粘性土 ☐ 不明		排水施設	☐ 無 ☒ 有(のり肩、小段排水)		
のり面高 (複合のり面は擁壁高含)		最大高 m(平均高 m)		のり面保護工	☐ 無 ☐ 植生土 ☐ 構造物		
		(うち擁壁高 m)		擁壁配置	☐ のり面の上部 ☐ のり面の中部		
のり面勾配		度				☐ のり面の下部 ☐ 全面	
のり長さ		m		家屋の有無	上部 ☐ 有 ☐ 無 : 下部 ☐ 有 ☐ 無		
写真・図より 変 状 形 態 と 配 点 表							
宅 地 地 盤	変形状態のチェック(複数可)		小		中		大
	1	クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15cm 未満又は 複数	3	15cm 以上又は全面 5
	2	陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm未満	4	50 cm以上 6
	3	沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm未満	4	25 cm以上 7
	4	段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm未満	5	50 cm以上 8
	5	隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm未満	8	50 cm以上 9
	6	湧水、噴砂	☒ 無 ☐ 有→+ 1 点(上の点数に 1 点加える)				

のり面・自然斜面	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm未満又は複数	2	15 cm以上又は全面	3
	2 ハラミ(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm未満	4	30 cm以上	5
	3 ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝壺状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。	8
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	表層すべりが進んでえぐり取られたような状態。放置すると拡大するおそれのあるもの、又はのり面中部までの崩壊。	8	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部を含む全崩壊。	9
	5 のり面保護工の変状(植生工は除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破壊。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。	9
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は目地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。	7
	7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。					8
	8 湧水、落石・転石	□無 □有→+1点(上の点数に1点加える)					
	被害の判定値 ※基礎点に変状点の最大値を加えた点数 ※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し		7 点 ☆被害程度の点数と危険度判定☆ 無被害： 0 点(防災上問題無し) 小被害： 1~3 点(当面は防災上問題無し) 中被害： 4~7 点(制限付き立入。進行していれば避難) 大被害： 8~10 点(危険、要避難、立入禁止)				
	危険度判定		□大 ☒ 中 □小 □無				
所見記入者の意見 ※無被害の場合は記載無し	緊急度	☒ 大 □中 □小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)					
	拡大の見込	☒ 有 □無 □判断不可 (備考：)					

(様式-2) 宅地地盤／のり面・自然斜面被害状況調査・危険度判定票

調査票		調査日時	年	月	日	時	調査番号
地震名又は降雨災害名							
被害発生場所		都道府県		市郡		区町村	
所有者・管理者氏名		記入者氏名		TEL:			
所有者・管理者の連絡先		TEL:		居住者への説明			
		□済 □未了		□居住者不在 □老人独居住宅			
		□済 □未了		□被災無 □簡易記録			
＜被災状況図＞ 宅地地盤 のり面・自然斜面 1.クラック 2.陥没 3.沈下 4.段差 5.隆起 1.クラック 2-1.ハラム 2-2.盤ぶくれ 3.ガリー浸食 4-1.滑落 4-2.崩壊 5.のり面保護工変状 6.排水施設の変状 ※宅地地盤・宅地ののり面で簡易記録をする場合は、被災状況図は省略することができる。 ただし、調査箇所が分かるよう判定結果を住宅地図上に記載し、被害が無いことが確認できる全景写真を撮影する。							
【平面図】 【断面図】							
被災写真の有無		☐ 無 ☒ 有 → 写真番号 [14-4~6]					
特記事項		沈下の変状が著しいため当該宅地に立ち入る際は、時間・人数を制限するなど十分注意する。変状が進行していれば避難も必要					

のり面・自然斜面の基礎的條件						
地盤	岩	□軟岩 □硬岩 □不明	オーバーハング	□無 □有		
	土砂	□砂質土 □礫質土 □粘性土 □不明	排水施設	□無 □有(のり面、小段排水)		
のり面高	最大高	m(平均高 m)	のり面保護工	□無 □植生土 □構造物		
(掘削のり面は掘削高)	(うち隆起高)	m	擁壁配置	□のり面の上部 □のり面の中部		
のり面勾配	度			□のり面の下部 □全面		
のり長さ	m		家屋の有無	上部 □有 □無 : 下部 □有 □無		
変形状態と配点表						
宅地地盤	変形状態のチェック(複数可)	小	中	大		
	1 クラック(幅)	3 cm未満	1	3~15 cm 未満又は複数	3	15 cm 以上又は全面
	2 陥没(深さ)	20 cm未満	2	20~50 cm 未満	4	50 cm 以上
	3 沈下(沈下量)	10 cm未満	2	10~25 cm 未満	4	25 cm 以上
	4 段差(段差量)	20 cm未満	3	20~50 cm 未満	5	50 cm 以上
	5 隆起(隆起量)	20 cm未満	7	20~50 cm 未満	8	50 cm 以上
6 湧水、噴砂	□無 □有+1点(上の点数に1点加える)					
のり面・自然斜面	変形状態のチェック(複数可)	小	中	大		
	1 クラック(幅)	3 cm未満又は単数	1	3~15 cm 未満又は複数	2	15 cm 以上又は全面
	2 ハラム(隆起量)	10 cm未満	3	10~30 cm 未満	4	30 cm 以上
	3 ガリー浸食	クラックなどが誘因となって雨滴による浸食が現れはじめた段階。	6	のり面の表土が雨裂に陥没するなど放置していると被害が広がるおそれのあるもの。	7	洞穴状や滝状にガリーが進展して家屋の基礎やのり面等の下側に被害を及ぼすような状態。
	4 滑落・崩壊	部分的な表層すべり、又はのり面上部の小崩壊。	7	全面的なすべり崩壊で、さらに拡大のおそれがあるもの、又はのり面底部部を含む全崩壊。	8	9
	5 のり面保護工の変状(植生工を除く)	例えば、のり枠の間詰め陥没。又はコンクリート吹付工にわずかにテンションクラックが見られるが吹付工のずれは認められない程度。	7	例えば、のり枠の部分的な破損。又はコンクリート吹付工のクラック部分で陥没・ずれが見受けられる。	8	例えば、のり枠の浮上り破損。又はコンクリート吹付工のラス金網が露出し、コンクリート吹付面にも破損が見受けられる。
	6 排水施設の変状	天端排水溝にずれ、欠損がある。又は、天端背面、舗装面にクラックが見られる。	3	左に加え、のり面のクラック、又は日地からの湧水がある。	5	排水溝が破断沈下するなど、排水機能が失われている。
	7 のり面内の水道管等の破裂	破裂して水が流出している。				
8 湧水、落石・転石	□無 □有+1点(上の点数に1点加える)					
被害の判定値		7 点		☆被害程度の点数と危険度判定☆		
※基礎点と変状点の最大値を加えた点数				無被害: 0 点(防災上問題無し)		
※無被害の場合は基礎・被害点の記載無し				小被害: 1~3 点(当面は防災上問題無し)		
危険度判定		□大 ☒ 中 □小 □無		中被害: 4~7 点(制限付き立入。進行していれば避難)		
				大被害: 8~10 点(危険、要避難、立入禁止)		
所見記入者の意見	緊急度	□大 □中 □小 (人命・財産・交通の3点を判断基準とする。)				
※無被害の場合は記載無し	拡大の見込	□有 □無 □判断不可 (備考:)				



・宅地擁壁の定義での判定 6.2点

⇒判定区分「中」

要注意宅地

・宅地地盤の定義での判定 7点

⇒判定区分「中」

要注意宅地



宅地擁壁の健全度判定・予防保全対策マニュアル

令和4年4月

国土交通省



ご静聴ありがとうございました

公益社団法人 全国宅地擁壁技術協会